

第22回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム実施報告

徳島大学高等教育研究センター
創新教育推進部門
イノベーションプラザ



徳島大学は、令和7年11月15日から16日の二日間、「第22回ものづくり・創造性教育に関するシンポジウム」を開催し、全国の大学・高専から15機関（内、加盟は12機関）、計41名の参加者を迎えた。また、創造性教育ネットワークに未加盟の新居浜工業高等専門学校、阿南工業高等専門学校の教員に講演発表していただき、ものづくりネットワークへの加盟を検討いただくよう依頼した。また、前回の第21回ものづくり・創造性教育シンポジウム情報交換会においてリクエストいただいた2023年開校の神山まるごと高等専門学校の生徒に参加いただき、高専紹介およびものづくり活動実践報告をしていただいた。

国立大学初のフューチャーセンターとして2015年9月にオープンした「徳島大学フューチャーセンターA.BA」を会場にして、河野文昭センター長の開会挨拶に始まり、イノベーションプラザ前身の創成学習開発センター初代センター長である英崇夫徳島大学名誉教授に特別講演「ものづくり・創造性教育のこれまでとこれから～共創の世界の発展～」をいただいた。近年の日本のノーベル賞受賞者のイノベーションに至る話、共創の重要性、ものづくり・創造性教育にはSTEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, Mathematics) 教育が根幹を成すなど貴重な講演をいただいた。その後、2日間にわたり各大学・高専がそれぞれの活動状況や取り組みを公開し、全10件の講演と2件の学生発表が行われた。初日の夕方に実施された「ものづくり・創造性教育を考えるワークショップ(OST)」では、参加者が抱えている課題を募集し、出された6つの課題を解決することをテーマとして各テーブルに分かれて自由に議論を行った。教職員からは「ものづくり・創造性教育シンポジウム参加校を増やしたい」、「ものづくりセンターの自主的利用が少ない」、「学ぶと習うと切れ目は何か」の3つの課題が、学生・高専生からは「教員の業務効率化と教育DXについて」、「今の教育でプロになれるか心配」、「どうやってファン（支援者）を作ればいいの」の3つの課題が挙がった。ほとんどの課題の共通点は、多くの人（学生）に関心・興味を持たせることで解決でき、どのように実践するかが改善および教育のポイントに繋がる。ワークショップの詳細については別途報告する。2日目の最後には、ポストLEDフォトニクス研究所(pLED)とイノベーションプラザの施設見学を行った。pLEDでは、テラヘルツ帯に対応した次世代超高速無線通信の研究開発を行っている研究室所属学生による最先端技術の紹介や半導体等のナノ構造を作る装置の見学を行った。イノベーションプラザでは、2025年鳥人間コンテストに出場した機体の紹介や工作機械、学生プロジェクトスペースの見学を行った。



講演発表の様子



神山まるごと高専生による発表

ものづくり・創造性教育を考える
ワークショップ（OST）ものづくり・創造性教育を考える
ワークショップ（OST）

施設見学（pLED）



施設見学（イノベーションプラザ）

最後に次回のシンポジウムの開催場所について報告する。当初予定していた和歌山高専および山口大学は担当者の異動に伴い開催が困難との申し出があり、次回以降の開催場所について検討・調整を行った。次回2026年度の幹事校は福井大学、2027年度の幹事校は山梨大学に依頼し、了承を得た。さらに、2028年度の幹事校は鳥取大学に依頼しており、持ち帰って検討いただくことになったことを申し添える。

以上